

めざす児童生徒像

- ・自ら気づき、考え、判断し、行動する子
- ・何事にも主体的に取り組む子
- ・目標達成に向けて協働して取り組む中で、互いを尊重し自分も仲間とともに伸び、みんなで高めていく子

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策			
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)							
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者					
(学校で設定)	学校重点項目 主体性を持ち高め合う児童の育成 主体性・協働・尊重	①②③の姿を目指している教員・児童が、中間・・・教員85%以上・・・児童80%以上 年度末・・・教員90%以上・・・児童85%以上	① やさしい心で考え行動できる姿を目指している。	90.0	91.1	90.3	1.1	86.7	95.3	90.7	8.6	教師は、項目①において目標を達成しなかったが、②③においては全員が達成したと考えている。児童は、全ての項目で85%を超えることができたが、保護者との差が大きい項目がある。	項目①において具体的な望ましい姿を児童と教師が共有し、検証する機会を定期的にもつようにする。	
			② 自ら学びに向かう姿を目指している。	95.0	87.2	77.8	-7.8	100	86.4	75.8	-13.6			
			③ 互いに認め、高め合う姿を目指している。	85.0	91.9	75.3	6.9	100	91	77.1	-9			
			集計	90.0	90.1	81.1	0.1	95.6	90.9	81.2	-4.7			
重点項目 業務の改善 働き方や業務改善	業務改善	①②とも意識的に行っている教員が80%以上である。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	80				100			どちらの項目も全ての職員において達成できたと感じている。	今後も、組織における役割を明確化し、ICT等を利用して業務の改善に努めていく。		
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	90				100						
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	95				100			①国語研究1年目だったが、皆で共通実践に取り組むことができ、国語授業のスタイルができてきた。 ②国語科で児童に力をつけるために、教材研究や事前授業、整理会などで意見を言い合い指導に活かした。	①共通実践で、まだ取組が十分ではないところや、新たに出てきた課題について、次年度取組を進めていく。 ②今年度の研究を最大限に活かすとともに、新たな課題について研究を進めていく。		
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	90				100						
			集計	92.5										
	指導力の向上	①②の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	の視点からの授業改善	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	95	89.1		-5.9	100	86.4		-13.6	①全体的に、児童は前向きに課題解決に向けて取り組んでいた。しかし、特定の子に任せて、ノートを写すだけにしない等、次年度改善していく必要がある。 ②授業で話し合う活動を取り入れることはできていたが、自分の考えを一方的に言ったり、一部の友達の考えを聞いたりして終わるなど、深まりや広がりが見られない場面も見られた。	①どの学力の児童も全員参加できるような授業を目指し、具体策を考え実践していく必要がある。 ②一方的に意見を言って終わりではなく、グループやペア、ICT活用を効果的に行い、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を意図的に設けていく必要がある。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	95	87.6		-7.4	93.4	87.6		-5.8		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	95	88		-7	93.4	86.8		-6.6		
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	85	89.5		4.5	93.3	90.7		-2.6		
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	95	87.2		-7.8	100	87.5		-12.5		
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	90	93.3		3.3	100	97.3		-2.7		
	集計	92.5	89.1			96.7	89.4							
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②がそれぞれ、90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100				100				①②に関して、全教職員ができていたと答えた。教育課程に関しては、学校力向上ロードマップを、児童指導計画に関しては、カリキュラムマップを使い、計画的に取組や学習を進めることができた。	学校力向上ロードマップや学年のカリキュラムマップを活用しながら、計画的に教育活動を進めていく。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	95				100						
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100				100						
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	90				86.7						
			集計	96.3				96.7						
家庭学習	①②の教員アンケート結果がそれぞれ、90%以上		① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	95				93.3			①②の数値はどちらも90%を超えることができた。学習用端末を用いた家庭学習の方法や課題の課し方を共通理解し、各担任が工夫して家庭学習に取り組ませることができた。	家庭学習の在り方を見直し、家庭学習時間にこだわるのではなく、学習の仕方に着目し、効果的で効率的な家庭学習を展開していきたい。		
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	95			-95	100						
			集計	95				96.7						